

第 15 回 創薬支援ネットワーク協議会 議事概要

■日 時：令和元年6月18日(火) 16時00分～17時00分

■場 所：中央合同庁舎4号館12階 共用1214特別会議室

■出席者：

議 長：内閣官房 和泉健康・医療戦略室長

(欠席につき、大坪次長が代理)

構成員：内閣府 小川日本医療研究開発機構・医療情報基盤担当室室長

大坪日本医療研究開発機構・医療情報基盤担当室次長

文部科学省 増子大臣官房審議官

仙波研究振興局 ライフサイエンス課長

厚生労働省 伯野医政局 研究開発振興課長

佐原大臣官房審議官

経済産業省 上村商務・サービスグループ 生物化学産業課長

渡邊大臣官房審議官

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 河野創薬戦略部長

国立研究開発法人理化学研究所 創薬・医療技術基盤プログラム

後藤 プログラムディレクター

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 近藤医薬基盤研究所長

国立研究開発法人産業技術総合研究所 松岡理事・生命工学領域 領域長

日本製薬工業協会 中山会長

参考人：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 竹中プログラムディレクター

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 近藤名誉理事長

オブザーバー：永井健康・医療戦略参与

■概要：

1) 創薬支援ネットワークの活動状況(資料3)

- AMED河野創薬戦略部長より、5月末に新たに1件の支援テーマが企業導出され、当初の目標(2020年までに5件の導出)を超え、計7件の導出を達成したことなどが報告された。

2) 令和2年度創薬支援ネットワークに必要な予算要求方針(資料4)

- 創薬支援ネットワークに必要な新たな設備・技術が提示され、これらの設備・技術について、令和2年度の予算要求へ反映することをAMEDから3独法へ要望した。これについて、各独法から具体的な取組について説明がなされるとともに、各省より、要望を踏まえた概算要求を行う方向である旨の発言があった。
- AMED河野創薬戦略部長より、protein-protein interaction(PPI)を含めた幅広い標的に対応するため、合成展開可能な中分子ライブラリーをDISCに新規に構築することが提案された(令和2年度 厚生労働省 創薬支援推進事業予算として)。
- 上記AMEDからの報告について、以下の意見があった。
 - ・ 支援中止テーマのモダリティに低分子創薬が多い理由について、各ステージにおいて2年経過したものは、一旦、その後の支援継続について可否を検討する「2年ルール」の対象となり、それらの(2年前以前の)テーマには低分子をモダリティとしているものが多かったことによる。モダリティの多様化により、低分子以外への創薬もチャレンジしている、とAMEDから説明があった。
 - ・ 中分子は非常に大事なターゲットである。一方、低分子と異なり、スクリーニングで得られた中分子ヒット化合物の最適化については、まだその技術が確立されていない現状である。中分子ヒット化合物の最適化について、様々な方策を考えていく必要があるのではないか。
 - ・ PPIが非常に重要であることは認識している。基盤になる技術(情報科学やタンパク構造化学など)もどんどん進化しているので、中分子ライブラリーは単に化合物を集めるだけでなく、基盤技術の研究開発も並行して進めていく必要があるのではないか。

3) その他

- 次回協議会(9月開催予定)では、今回の予算要求方針の結果について確認する。

以上